

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	: イーグリップ 80 (E-Grip 80)
会社名	: 株式会社創新
住所	: 東京都豊島区上池袋4-11-16ノックストールビル3階
電話番号	: 03-3918-3100
FAX番号	: 03-3918-3511
推奨用途及び使用上の制限	: 自動車向け板金用パテ

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分3

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 区分2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A

皮膚感作性 区分1

生殖細胞変異原性 区分2

発がん性 区分2

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分3(麻酔作用、気管刺激性)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(神経系、呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(肝臓、腎臓)

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分3

水生環境有害性(長期間) 区分3

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル

注意喚起後
危険有害性情報

危険

引火性液体および蒸気
皮膚刺激
強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い
呼吸器の障害
呼吸器への刺激のおそれ
眠気またはめまいのおそれ
長期間にわたる、または反復ばく露による神経系、呼吸器の障害
長期間にわたる、または反復ばく露による肝臓、腎臓の障害のおそれ
長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き
安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースを取ること。
防爆型の電気/換気/照明等機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

<p>取扱い後は手、顔をよく洗うこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。 皮膚または髪に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。 皮膚刺激または発疹が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。 ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 施錠して保管すること。 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。</p>	<p>応急措置</p> <p>保管</p> <p>廃棄</p>
--	--

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
 成分 :

化学名	含有率	CAS番号	化審法番号	安衛法		PRTR	毒劇
				表示	通知		
ビニルトルエン	10-30%	25013-15-4	3-8	≥1%	≥1%	非該当	非該当
2-フェノキシエタノール	0.1-1%	122-99-6	3-558	非該当	非該当	非該当	非該当
テトラヒドロフタル酸無水物	0.1-1%	85-43-8	3-3435	非該当	非該当	非該当	非該当
二酸化チタン	0.5-1.5%	13463-67-7	1-558	≥1%	≥0.1%	非該当	非該当
炭酸カルシウム	7-15%	471-34-1	1-122	非該当	非該当	非該当	非該当
タルク	10-30%	14807-96-6	対象外	非該当	非該当	非該当	非該当

4. 応急措置

<p>吸入した場合</p> <p>皮膚に付着した場合</p> <p>眼に入った場合</p> <p>飲み込んだ場合</p>	<p>: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。</p> <p>: 多量の水と石けん(鹸)で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。</p> <p>: 直ちに、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。</p> <p>: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 気分が悪いときは医師に連絡すること。</p>
--	--

5. 火災時の措置

<p>消火剤</p> <p>使ってはならない消火剤</p> <p>火災時の特有の危険有害性</p> <p>特有の消火方法</p> <p>消火を行う者の保護</p>	<p>: 粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水</p> <p>: 棒状注水</p> <p>:</p> <p>: 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 消火作業は、風上から行う。 周囲の設備等に散水して冷却する。</p> <p>: 消火活動では適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。</p>
---	--

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

流出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
漏洩時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を及ぼさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収

スコップですくい取り空容器に回収する、取除いた後、残りをウエス雑巾等によくふき取る。

中和

「13、廃棄上の注意」に従い適切に処理する。

二次災害の防止

こぼれた場所は滑りやすいために注意する。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い上及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気、全体換気等)

気中濃度を管理濃度、許容濃度或は推奨される濃度以下を保つために、適切な全体換気または局所排気を行う。

取扱者のばく露防止の記載

取り扱いには、換気の良い場所で行う。
取り扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」にある混触危険物質と接触しないように取扱う。

衛生対策

取扱い後は、手、顔をよく洗い、うがいをする。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で、容器を密閉し保管する。
日光から遮断すること。

安全な容器包装材料

オリジナルの容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

安衛法 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会	二酸化チタン(第2種粉じん)	1mg/m ³	(吸入粉塵)
		4mg/m ³	(総粉塵)
	炭酸カルシウム(第3種粉じん)	2mg/m ³	(吸入粉塵)
		8mg/m ³	(総粉塵)
ACGIH	タルク(第1種粉じん)	0.5mg/m ³	(吸入粉塵)
		2mg/cm ³	(総粉塵)
ACGIH	ビニルトルエン	TWA 50ppm	
		STEL 100ppm	
	二酸化チタン	TWA 10mg/m ³	
	炭酸カルシウム	TWA 10mg/m ³	

タルク

TWA 2mg/m³**設備対策**

屋内作業場での使用の場合は発生源を密閉化し、又は、局所排気装置を設置する。
取扱場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

保護具

呼吸用保護具: 適切な呼吸器保護具
手の保護具: ゴム手袋
眼の保護具: 安全眼鏡、安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具: 長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状態、形状、色など)

物理的状態	
形状	ペースト状
色	明るい灰色
臭い	情報なし
臭いの閾値	情報なし
pH	情報なし
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸点範囲	168℃
引火点	53℃
蒸発速度	情報なし
燃焼・爆発範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
比重(相対密度)	1
溶解度	情報なし
n-オクタノール/水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	150,000cp

10. 安定性及び反応性**反応性**

予想される反応はない。

化学的安定性

通常取り扱いでは安定。

危険有害反応可能性

通常の保管条件下での反応は予想されない。

避けるべき条件

温度上昇

混触危険物質

金属、酸、アルミニウム合金、アンモニア、強酸化剤、有機過酸化物、塩素化合物、強酸

危険な分解生成物

二酸化炭素、一酸化炭素

11. 有害性情報

製品としての有害性情報はない、成分の有害性情報は以下の通りである。

急性毒性

経口	ビニルトルエン	ラットLD50 2255mg/kg
	二酸化チタン	ラットLD50 >10000mg/kg

- テトラヒドロフタル酸無水物 ラットLD50 5410mg/kg
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性**
 ビニルトルエン
 NTPのヒトの皮膚を刺激する、IUCLIDのウサギの試験で刺激性の記述から、区分2。
- 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性**
 ビニルトルエン
 IARC、ICSGのヒトの眼を刺激するとの記述から、区分2。
- 皮膚感作性**
 テトラヒドロフタル酸無水物
 モルモットの皮膚感作性試験にて、陽性率85%の結果 (IUCLID) に基づき区分1。
- 生殖細胞変異原性**
 ビニルトルエン
 マウス小核試験で陽性の結果があるが、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験で陽性の結果がなく、区分2とした。
- 発がん性**
 二酸化チタン
 IARCで超微粒酸化チタン (粒径10-50nm) をグループ2Bに分類されていることより区分2とした。
- 特定標的臓器 単回ばく露**
 ビニルトルエン
 ヒト暴露例で上気道刺激性が認められた、およびヒトで高用量暴露により中枢神経抑制が認められるとの記述から、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。
 タルク
 ヒトでは、乳幼児のタルク吸入事故で呼吸困難、息切れ、嘔吐、呼吸障害、肺炎の報告がある。実験動物では、ハムスターへの本物質を用いる気管内注入で、酵素濃度の増加、肺水腫、マクロファージ食作用の抑制、呼吸器への影響が懸念されることから、区分1 (呼吸器) とした。
- 特定標的臓器 反復ばく露**
 ビニルトルエン
 ヒト職業暴露例に中枢神経系への影響が認められ記述から、区分1 (神経系)。また、ラットを用いた吸入暴露試験において肝臓および呼吸器への影響、および腎症の発現増加が区分2のガイダンス値範囲で認められたとの記述から、区分2 (肝臓、呼吸器、腎臓) とした。
 タルク
 ヒトにおいて、職業ばく露により、肺機能障害、X線検査において肺の陰影の有症率増加の報告があり、区分1 (呼吸器) とした。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)

ビニルトルエン

魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=23.4mg/L (IUCLID, 2000) から、区分3とした。

水生環境有害性(長期間)

ビニルトルエン

急性毒性が区分3、生物蓄積性は低い、急速分解性がないと推定され、区分3とした。

残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。

汚染容器及び包装

内容物を完全に除去した後に処分する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送

国連番号	UN3269
品名(日本語名)	ポリエステル樹脂キット
品名(英語名)	Polyester Resin Kit
国連分類	3
容器等級	III
海洋汚染物質	-
航空輸送	
国連番号	UN3269
品名(日本語名)	ポリエステル樹脂キット
品名(英語名)	Polyester Resin Kit
国連分類	3
容器等級	III
緊急時応急措置指針番号 (NAERG)	128
国内規制	
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う
航空規制情報	航空法の規定に従う
陸上規制情報	消防法の規定に従う
その他	
転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。 直射日光を避けて輸送する。	

15. 適用法令

化学物質排出管理促進法		非該当
労働安全衛生法	通知義務物質	ビニルトルエン、二酸化チタン
労働安全衛生法	表示義務物質	ビニルトルエン、二酸化チタン
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則	非該当
労働安全衛生法	特定化学物質障害予防規則	非該当
毒物及び劇物取締法		非該当
消防法	危険物 第4類 第2石油類 非水溶性	危険等級III

16. その他情報

※ ITW Evercoat SDS: Revision Date: 07-11-2017, Revision Number 6に対応

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の実施を前提としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。このSDSは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	: イーグリップ 180 (E-Grip 180)
会社名	: 株式会社創新
住所	: 東京都豊島区上池袋4-11-16ノックスドールビル3階
電話番号	: 03-3918-3100
FAX番号	: 03-3918-3511
推奨用途及び使用上の制限	: 自動車向け板金用パテ

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分3

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 区分2
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A
 皮膚感作性 区分1
 生殖細胞変異原性 区分2
 発がん性 区分1
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器)
 区分3(麻酔作用、気管刺激性)
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(神経系、呼吸器)
 区分2(肝臓、腎臓)

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 区分3
 水生環境有害性(長期間) 区分3

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル

注意喚起後
危険有害性情報

危険

引火性液体および蒸気
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 遺伝性疾患のおそれの疑い
 発がんのおそれ
 呼吸器の障害
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気またはめまいのおそれ
 長期にわたる、または反復ばく露による神経系、呼吸器の障害
 長期にわたる、または反復ばく露による肝臓、腎臓の障害のおそれ
 長期継続の影響により水生生物に有害

注意書き
安全対策

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地しアースを取ること。
 防爆型の電気/換気/照明等機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

<p>取扱い後は手、顔をよく洗うこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。</p> <p>応急措置</p> <p>皮膚または髪に付着した場合: 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。 皮膚刺激または発疹が生じた場合: 医師の診察/手当を受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当を受けること。 ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当を受けること。 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。</p> <p>保管</p> <p>換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 施錠して保管すること。</p> <p>廃棄</p> <p>内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託し適切に廃棄すること。</p>
--

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
 成分 :

化学名	含有率	CAS番号	化審法番号	安衛法		PRTR	毒劇
				表示	通知		
ビニルトルエン	10-30%	25013-15-4	3-8	≥1%	≥1%	非該当	非該当
2-フェノキシエタノール	0.1-1%	122-99-6	3-558	非該当	非該当	非該当	非該当
テトラヒドロフタル酸無水物	0.1-1%	85-43-8	3-3435	非該当	非該当	非該当	非該当
二酸化チタン	0.1-1%	13463-67-7	1-558	≥1%	≥0.1%	非該当	非該当
結晶性シリカ	0.1-1%	14808-60-7	1-548	≥0.1%	≥0.1%	非該当	非該当
炭酸カルシウム	7-15%	471-34-1	1-122	非該当	非該当	非該当	非該当
タルク	10-30%	14807-96-6	対象外	非該当	非該当	非該当	非該当

4. 応急措置

吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	:	多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当を受けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合	:	直ちに、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当を受けること。
飲み込んだ場合	:	口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 気分が悪いときは医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤	:	粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水
使ってはならない消火剤	:	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	:	
特有の消火方法	:	火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 消火作業は、風上から行う。 周囲の設備等に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	:	消火活動では適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

流出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
漏洩時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を及ぼさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収

スコップですくい取り空容器に回収する、取除いた後、残りをウエス雑巾等によくふき取る。

中和

「13、廃棄上の注意」に従い適切に処理する。

二次災害の防止

こぼれた場所は滑りやすいために注意する。
付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い上及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気、全体換気等)

空气中濃度を管理濃度、許容濃度或は推奨される濃度以下を保つために、適切な全体換気または局所排気を行う。

取扱者のばく露防止の記載

取り扱いには、換気の良い場所で行う。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」にある混触危険物質と接触しないように取扱う。

衛生対策

取扱い後は、手、顔をよく洗い、うがいをする。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で、容器を密閉し保管する。
日光から遮断すること。

安全な容器包装材料

オリジナルの容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

安衛法 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会	二酸化チタン(第2種粉じん)	1mg/cm ³	(吸入粉塵)
		4mg/cm ³	(総粉塵)
	炭酸カルシウム(第3種粉じん)	2mg/m ³	(吸入粉塵)
		8mg/m ³	(総粉塵)
	タルク(第1種粉じん)	0.5mg/m ³	(吸入粉塵)
		2mg/m ³	(総粉塵)
	シリカ	0.03mg/m ³	(吸入粉塵)
ACGIH	ビニルトルエン	TWA 50ppm	
		STEL 100ppm	

二酸化チタン	TWA	10mg/m ³
炭酸カルシウム	TWA	10mg/m ³
タルク	TWA	2mg/m ³
シリカ	TWA	0.025mg/m ³

設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源を密閉化し、又は、局所排気装置を設置する。
取扱場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

保護具

呼吸用保護具: 適切な呼吸器保護具
手の保護具: ゴム手袋
眼の保護具: 安全眼鏡、安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具: 長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状態、形状、色など)

物理的状態	
形状	ペースト状
色	緑色
臭い	情報なし
臭いの閾値	情報なし
pH	情報なし
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸点範囲	168°C
引火点	53°C
蒸発速度	情報なし
燃焼・爆発範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
比重(相対密度)	1
溶解度	情報なし
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	90,000cp

10. 安定性及び反応性**反応性**

予想される反応はない。

化学的安定性

通常取り扱いでは安定。

危険有害反応可能性

通常の保管条件下での反応は予想されない。

避けるべき条件

温度上昇

混触危険物質

金属、酸、アルミニウム合金、アンモニア、強酸化剤、有機過酸化物、塩素化合物、強酸

危険な分解生成物

二酸化炭素、一酸化炭素

11. 有害性情報

製品としての有害性情報はない、成分の有害性情報は以下の通りである。

急性毒性

経口	ビニルトルエン	ラットLD50 2255mg/kg
	二酸化チタン	ラットLD50 >10000mg/kg
	テトラヒドロフタル酸無水物	ラットLD50 5410mg/kg

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ビニルトルエン

NTPのヒトの皮膚を刺激する、IUCLIDのウサギの試験で刺激性の記述から、区分2。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ビニルトルエン

IARC、ICSCのヒトの眼を刺激するとの記述から、区分2。

皮膚感作性

テトラヒドロフタル酸無水物

モルモットの皮膚感作性試験にて、陽性率85%の結果(IUCLID)に基づき区分1。

生殖細胞変異原性

ビニルトルエン

マウス小核試験で陽性の結果があるが、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験で陽性の結果がなく、区分2とした。

発がん性

二酸化チタン

IARCで超微粒酸化チタン(粒径10-50nm)をグループ2Bに分類されていることより区分2とした。

結晶性シリカ

IARCの評価はグループ1に分類。GHS区分1とした。

特定標的臓器 単回ばく露

ビニルトルエン

ヒト暴露例で上気道刺激性が認められた、およびヒトで高用量暴露により中枢神経抑制が認められるとの記述から、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

タルク

ヒトでは、乳幼児のタルク吸入事故で呼吸困難、息切れ、嘔吐、呼吸障害、肺炎の報告がある。実験動物では、ハムスターへの本物質を用いる気管内注入で、酵素濃度の増加、肺水腫、マクロファージ食作用の抑制、呼吸器への影響が懸念されることから、区分1(呼吸器)とした。

特定標的臓器 反復ばく露

ビニルトルエン

ヒト職業暴露例に中枢神経系への影響が認められ記述から、区分1(神経系)。また、ラットを用いた吸入暴露試験において肝臓および呼吸器への影響、および腎症の発現増加が区分2のガイダンス値範囲で認められたとの記述から、区分2(肝臓、呼吸器、腎臓)とした。

タルク

ヒトにおいて、職業ばく露により、肺機能障害、X線検査において肺の陰影の有症率増加の報告があり、区分1(呼吸器)とした。

12. 環境影響情報

製品としての環境影響情報はない、成分の環境影響情報は以下の通りである。

生態毒性**水生環境有害性(急性)**

ビニルトルエン

魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=23.4mg/L(IUCLID、2000)から、区分3とした。

水生環境有害性(長期間)

ビニルトルエン

急性毒性が区分3、生物蓄積性は低いが、急速分解性がないと推定され、区分3とした。

残留性・分解性

情報なし

生体蓄積性

情報なし

土壌中の移動性

情報なし

オゾン層への有害性

情報なし

13. 廃棄上の注意**残余廃棄物**

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。

汚染容器及び包装

内容物を完全に除去した後に処分する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上輸送

国連番号	UN3269
品名(日本語名)	ポリエステル樹脂キット
品名(英語名)	Polyester Resin Kit
国連分類	3
容器等級	III
海洋汚染物質	-

航空輸送

国連番号	UN3269
品名(日本語名)	ポリエステル樹脂キット
品名(英語名)	Polyester Resin Kit
国連分類	3
容器等級	III

緊急時応急措置指針番号(NAERG) 128

国内規制

海上規制情報 船舶安全法の規定に従う

航空規制情報 航空法の規定に従う

陸上規制情報 消防法の規定に従う

その他

転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
直射日光を避けて輸送する。

15. 適用法令

化学物質排出管理促進法		非該当
労働安全衛生法	通知義務物質	ビニルトルエン、二酸化チタン、シリカ
労働安全衛生法	表示義務物質	ビニルトルエン、二酸化チタン、シリカ
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則	非該当
労働安全衛生法	特定化学物質障害予防規則	非該当
毒物及び劇物取締法		非該当
消防法	危険物 第4類 第2石油類 非水溶性	危険等級III

16. その他情報

※ ITW Evercoat SDS: Revision Date: 07-11-2017, Revision Number 5に対応

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。このSDSは、新しい知見により予告なく改訂することがあります。